



はじめに

谷口歯科医院は本年で開業47年を迎えます。過ぎ去ってみればあつという間の年月でしたが、今、ようやく自信をもって言えることがいくつかできてきました。そのうちの一つに歯周病のほとんどは基本治療で治るということです。当院の患者さんの調査でも初診時の歯周ポケットが7~8mm

ある患者さんの90%近くが基本治療中に4mm以下になります。その後、長年経過を見ていくと中には進行して抜歯になってしまうものもありますが、まずは、基本治療をしっかりやることだと確信しています。

このたび、ずっと心に温めておいた思いを一気に吐露させていただける機会を得ました。

私は開業当初から自分の使命は歯科疾患をなくすことだと思ってきました。ですから、予防業務を歯科衛生士にお願いしてきました。開業当初はむし歯洪水時代の初期のころで、その後はずっとむし歯との戦いでした。その中で、歯周病にもブラッシングが大切であることを知り、歯周病も私たちの大きなテーマになりました。

私たちがラッキーだったのは初めての歯周病の講演会に歯科医師と歯科衛生士と一緒に出席し、同じ目標をもってスタートできたことです。このきっかけが、その後の40年の歯周病臨床を決定づけることになろうとは思いませんでした。それ以来、新人の歯科衛生士が入るとできるだけ同じ講演会に出るようにしてきました。

したがって、この本も是非、歯科医師と歯科衛生士さんで一緒に読んでほしいし、その中で何か一つ共通の目標を決めて邁進してほしいと思います。

共通の目標を持ったら、それを確かめることが必要です。谷口歯科医院では毎週水曜日の午後2時30分から4時まで勉強会をしています。これは開業以来欠かしたことがありません。内容は1週間分の口腔内写真

の供覧に続いて、当番制で歯科衛生士は担当患者さんの症例報告、歯科医師はスタッフに知っておいてほしい情報等、歯科技工士や受付、歯科助手は仕事上の情報や読后感想、診療に対する要望等を発表します。院長が特に指導めいたことをいうわけではありませんが、ディスカッションしてゆく中で自然に谷口歯科医院の方向性ができて、みんなにも伝わっていくようです。もちろん、ルートプレーニングができていなかったりすれば指摘されますので、どの歯科衛生士も全力でルートプレーニングをマスターし、全霊で患者さんにぶつかって症例報告資料を作り上げてきます。このようにして、谷口歯科医院ではどの歯科衛生士に当たっても同じ指導と同じスキルの治療が受けられるように努力しています。

この本のケースも、100%そのようにして積み重ねられた歴代の34名の歯科衛生士が行った貴重な資料なのです。

谷口歯科医院 谷口威夫
山岸貴美恵